

# 特集 2 高速道路網の整備



新名神 武庫川橋(兵庫県神戸市、2016年5月時点)



事業中の  
四車線化等改築区間  
総延長

107 km



高松道 大坂トンネル(入口)



新規事業中間  
総延長

95 km



四国横断道 吉野川大橋  
(下部工工事)

## 安全・低コスト・早期開通を追求しながら 国民生活を支える社会インフラの整備を推進

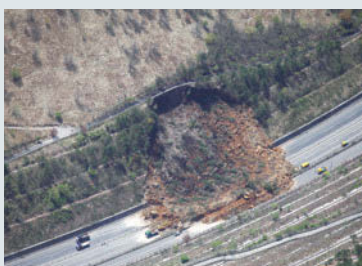
### 課題

慢性的な渋滞の緩和や  
災害発生時の緊急避難経路等として  
ネットワークの多重化が急務になっています



渋滞が頻発している  
中国自動車道(宝塚  
西トンネル付近)

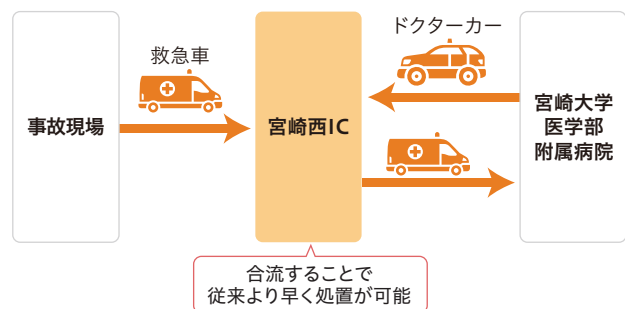
熊本地震による  
のり面崩壊で通行  
止めになった大分  
自動車道(由布岳  
PA付近)



### 東九州自動車道の開通によるアクセス改善で 救急搬送の短縮化が図られています

2014年3月に開通した東九州自動車道(延岡市～  
宮崎市)では、宮崎大学医学部附属病院が2014年4月  
からドクターカーの運用を始め、年間101件の出動実績  
のうち約20件で東九州自動車道が利用されています。  
ドクターカーはドクターヘリが出動できない天候や時間

### 東九州自動車道での救急搬送時間の短縮







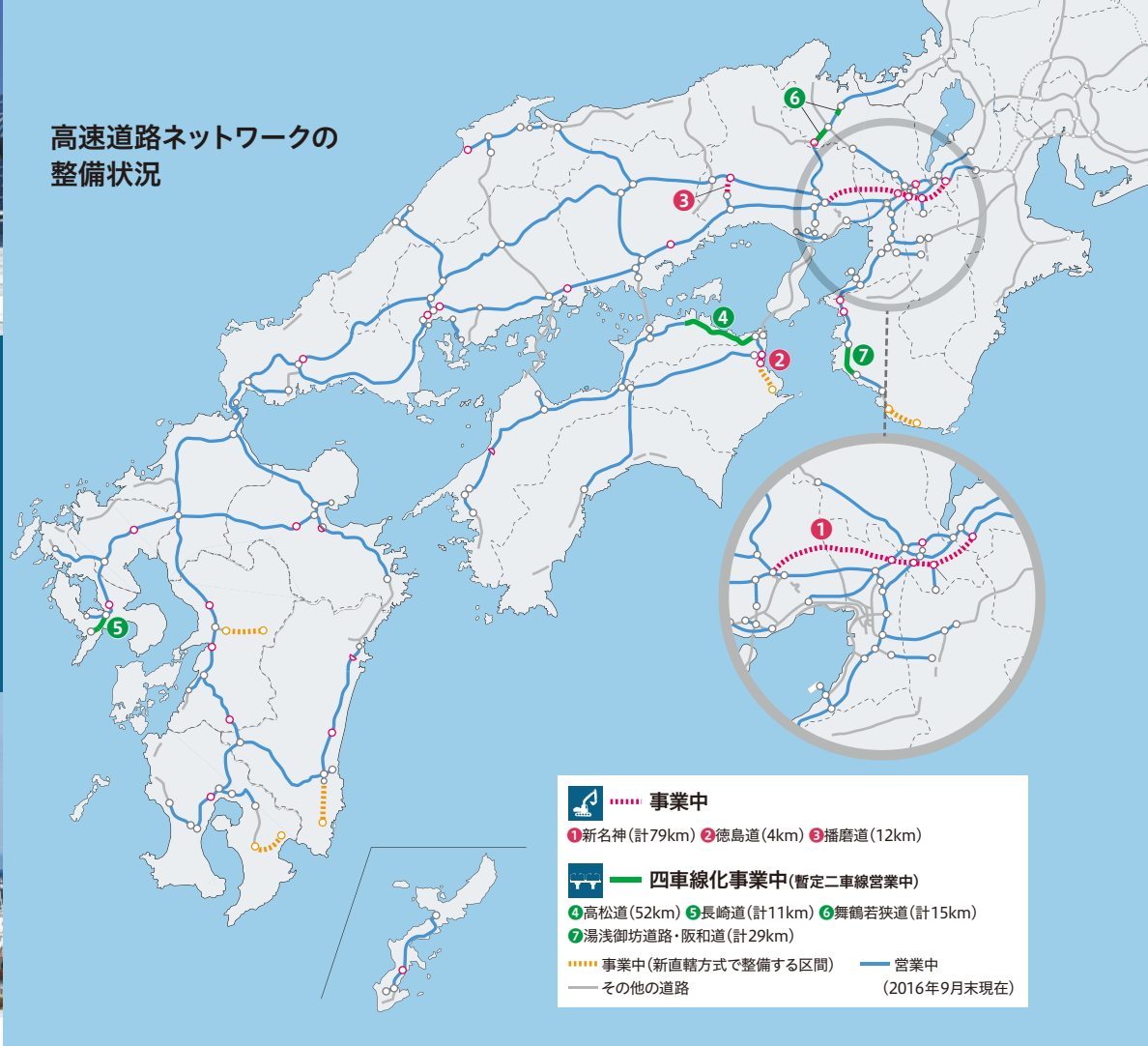
IC料金所屋上の太陽光パネル設置風景

太陽光パネルの設置箇所  
2015年までの5カ年

# 13カ所



## 高速道路ネットワークの整備状況



帯でも医師を乗せて救急現場に派遣される車両で、ICで救急車と合流して処置を行いながら病院へ搬送することで、多くの患者さんの救命に貢献しています。

高速道路の広域ネットワークの形成によるアクセス向上は、一般国道を利用した場合と比較した救急搬送時間の短縮によって救急医療活動への貢献も果たしています。



ドクターカー

## 工法を工夫することで安全性と施工性を上げコスト縮減と早期開通を目指しています

高速道路の整備にあたり、安全を最優先にコストを抑えた工法により、できるだけ短い工期での建設を心掛けています。

具体的には、道路構造の見直しや新技術・新工法の拡大、資機材の調達を工夫することにより、安全性の向上と工事の省力化に加え、施工時だけでなく維持・管理費の軽減を図ることによってトータルコスト削減を図っています。

### 新工法の採用例(新名神 武庫川橋)

#### 橋桁

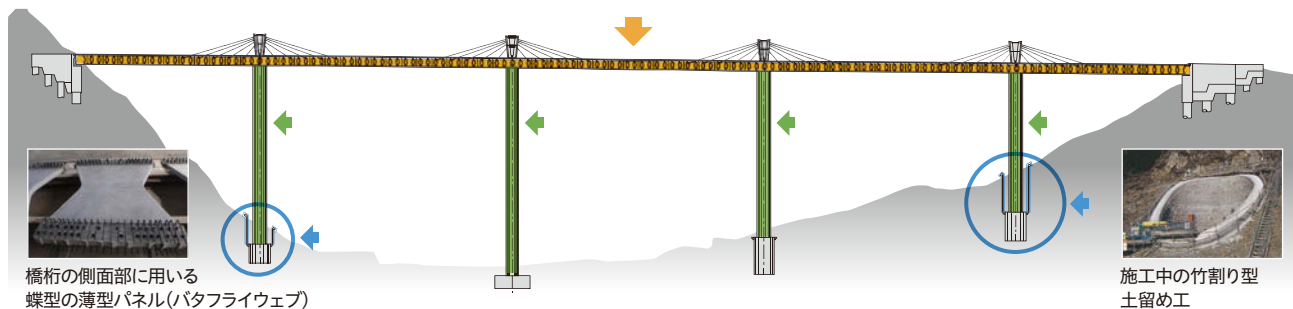
- コンクリート箱桁橋の側面部に蝶型の薄型パネルを使用(バタフライウェブ構造)
- 従来工法に比べ10%の軽量化を実現
- パネルは工場で作成するため、現場での施工作業を軽減

#### 橋脚

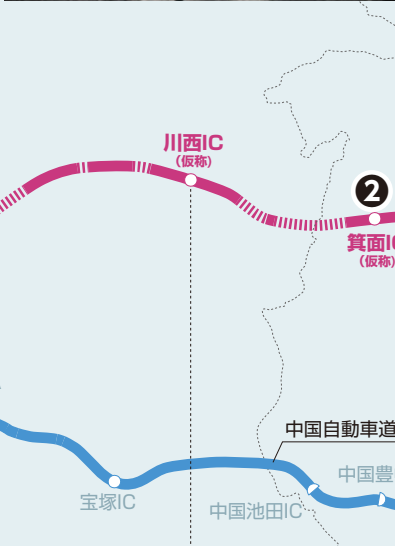
- 橋脚にプレキャスト部材を使用し、現場作業の省力化、工期短縮、品質向上を実現

#### 橋脚(基礎)

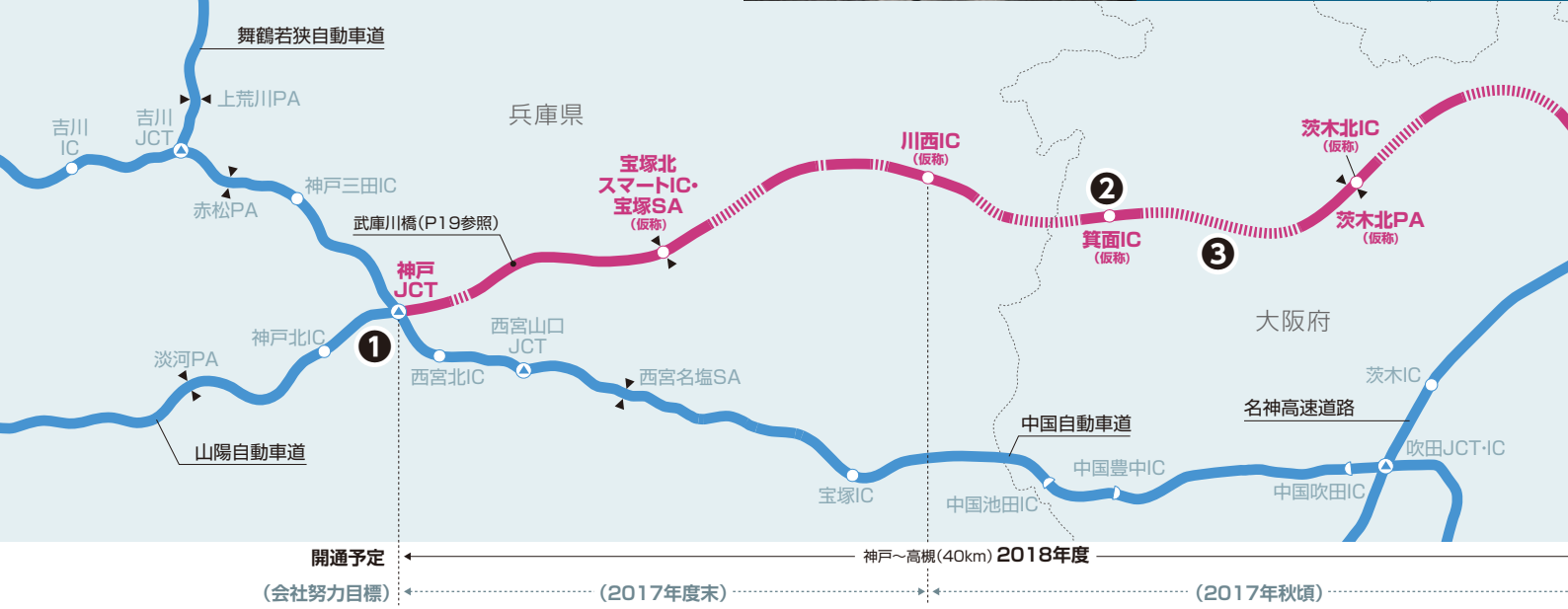
- 基礎部分に、自然への影響と施工後のメンテナンス費用を低減する「竹割り型土留め工法」を採用







  
 新名神・新東名で最長の  
 箕面トンネル  
4,997m (上り線)



### 環境や地域社会に配慮しながら 高速道路の建設工事を進めています

高速道路の計画路線は、市街化された住宅地から都市近郊の農地、山林と多岐にわたっています。建設工事の実施にあたっては関係機関と協議を重ね、地域の皆さまに丁寧に説明を行うとともに、周辺の環境保全にも十分に配慮して進めています。

2023年度の全線開通に向けて整備を進めている新名神高速道路の八幡JCT～高槻JCT間には、雅楽の楽器である

箏篋(ひちりき)に用いられる貴重なヨシが採取され、動植物の生息地でもある淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」があります。引き続き外部の専門家による検討委員会を活用し、環境保全と事業の両立を図りながら、建設工事を進めていきます。

2016年4月に、新名神高速道路の工事現場における橋梁が国道176号に落下した事故では、多くの皆さま方にご迷惑・ご不便、ご心配をおかけしましたが、国道176号の復旧工事が完了し、7月9日に通行止めが全面解除となりました。また、工事の安全が確認できたことから8月5日に工事を再開しました。



地図訂正作業の現地調査



鶴殿ヨシ原(川の右側一帯)



# 新名神高速道路の整備状況

- 事業中の新名神高速道路
- 営業中の高速道路
- 営業中の一般有料道路



事業中総延長  
**79km**  
大津JCT～神戸JCT間



全線開通予定  
**2023年度**  
大津JCT～神戸JCT間

## 日本の新しい大動脈、新名神高速道路の開通で人とモノの流れを変えていきます

名神高速道路は1963年の開通以来、日本の産業と社会を支えてきました。新名神高速道路はこの日本の大動脈を多重化し、新東名高速道路とともに三大都市圏を結び、移動時間の短縮化、重大事故や災害時の代替ルートの確保、車両通行の円滑化などの社会的使命があります。そうした期待に応えられるよう、引き続き社外意見も取り入れながら事業を推進していきます。

### 事業評価監視委員会からの主な意見 (2014年12月3日実施)

- 新名神高速道路(近畿自動車道 名古屋神戸線)は国土軸の一部として広域的な高速道路ネットワークを形成し、リダンダンシー機能<sup>\*</sup>の強化や多量の物流を担うなど、当該道路の整備の必要性は非常に高い。
- 中国自動車道や名神高速道路では多くの渋滞が発生している状況にあるが、新名神高速道路の整備により、それらの渋滞が大きく緩和されることが期待される。
- 関西文化学研都市での研究材料をSPring-8がある播磨科学公園都市に運んで分析するなど、科学技術分野の発展のためにも新名神高速道路の早期整備が必要である。

<sup>\*</sup> 自然災害等に備え、あらかじめネットワークを多重化するなどして、一部区間の途絶が全体の機能不全につながらないようにすること

### 社員コメント

NEXCO西日本

#### 地域の皆さまと一体となって事業を推進しています

地域の皆さまおよび関係自治体の方々には、日頃から新名神高速道路事業へのご理解・ご支援をいただきありがとうございます。



新名神大津事務所 所長  
**赤松 邦康**

当事務所は、大津JCTから滋賀・京都府県境までの12.2kmの建設事業を担当しております。現在、懸案事項であった地図訂正作業<sup>\*</sup>および幅杭打設もほぼ完了したことから、本格的に用地取得に着手し、あわせて本工事前準備として、工事用道路の整備にも取り組まれているところです。特に新名神大津スマートIC・SAの利活用については、地域の皆さまや行政機関からの関心が高く、事業に対する期待を感じております。

そこで当事務所では、沿線の特産品やご当地グルメ、観光地やイベントに当事業の進捗状況を紹介した広報誌を発行するとともに、地元のイベントに積極的に参加し、高速道路事業のPR活動を行ってまいりました。これからも、皆さまのご期待に応えられるよう、安全に留意し、行政・地域と一体となって事業を進めてまいります。

<sup>\*</sup> 不動産登記や法務局の地図(公図と呼ばれるもの)と実際の土地の形状とを照合する現地調査を行い、地図を訂正する作業